

福岡県立太宰府高等学校長殿

福岡県立太宰府高等学校 平成20年度 学校関係者評価書

福岡県立太宰府高等学校 学校関係者評価委員会

学校関係者評価委員会の評価結果を次のとおり報告します。

学校経営計画 (4月)					評価 (総合)		自己評価に対する学校関係者評価委員会の評価					
学校教育目標	1 知・徳・体の伸長と調和のとれた、情操豊かで進取の気概に充ち国際性に富み、将来国家社会に貢献できる人材の育成を目指す。 2 すべての生徒をわが子として育む学校を目指す。				B		評価 (総合)	自己評価は A 適切である B 概ね適切である C やや不適切である D 不適切である				
昨年度の成果と課題	年度重点目標		具体的目標									
1 成果 (1) 基礎学力の充実・向上 (2) 進路指導の充実 (3) 部活動、生徒会活動の活性化 2 課題 (1) 教科指導の充実と工夫改善 (2) 生徒一人ひとりに応じた進路意識の早期確立と深化 (3) 家庭、地域と連携のとれた教育活動	1 生徒指導に基盤を置いた教育の徹底	ア 基本的な生活態度を涵養し、責任を重んずる誠実な人間となるための指導を行う。 イ 師弟同行の教育実践をとおして、生徒自らが本校に学ぶ喜びと誇りを持つ指導を行う。 ウ 生徒会の主体的な活動を促し、生徒の自主性を培い、社会の一員としての資質や態度を高める。 エ 生徒の現状を的確に把握できる体制整備に努めるとともに、適切かつ迅速な指導力の向上に努める。										
	2 学習意欲の向上と基礎・基本を重視した学習指導の徹底	ア 基礎学力の充実・向上に努めるとともに、生徒自らが積極的に学習する態度を育成する。 イ 授業内容の充実に努め、生徒の学習理解の深化を図る。 ウ 習熟の程度に応じた適切な教科指導を行う。										
	3 広報活動の充実	ア 本校の教育活動内容を地域・保護者・中学生に迅速・的確に公開・発信し地域に根ざした学校としての地位の確立を図る。 イ 広報活動を展開する立場から、本校教育活動の体型化・充実のための提言を図る。										
	4 生徒の安全面への配慮と健康の増進	ア 健康診断後の治療勧告を行い、健康管理能力の向上を目指す。 イ 安全点検、安全教育を定期的に行い、教育環境の安全や交通マナーの向上を目指す。										
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題		項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見					
教科指導	1 生徒の実態に応じた指導を行い、生徒の学力向上を図る	ア 調査毎に結果の分析・検討会を設ける (各教科) ことで、生徒の実態に応じた指導方法、授業内容の工夫・改善を行う。 イ 生徒による授業評価を年間2回行い、その結果を教科別・個人別に分析することで授業改善に役立たせる。	B B	B	1 生徒の実態を更に把握し、実態に応じた適切な指導が出来るようにする。特に年度初め・導入期の指導も含め、教科内で共通認識に基づいた指導を計画・実施する。研究授業や授業アンケート等も利用して授業内容の工夫・改善を図る。 2 家庭学習時間を増加させるため、適切な課題の与え方、質・量について教科を越えて協議し、実行する。 3 新学習指導要領について検討を進める。 4 特別教室の使用状況が更に改善されるように管理方法を再検討する。 5 「総合的な学習の時間」や「ホームルーム活動」の時間については3年間の実施内容を評価し、再構築する必要がある。	B	○個々の教員の教科指導は、丁寧で熱心である。校内の組織的な授業内容・授業方法の工夫・改善へ向けた取組によって、さらなる学力向上が期待できる。					
	2 授業時間の確保に努める	ア 年間をとおして授業時間の確保や、授業時間の均等化を図り、実施授業時数を昨年度より増加させる。	A									
	3 授業環境の整備に努める	ア 教材の持ち帰り指導、ロッカーの整備、教室の美化等に積極的に取り組む。 イ 特別教室 (講義室・視聴覚室) の整備を行うなど適切に管理し環境整備に努める。	A B									
進路指導	1 進路実績の向上	ア 進路意識を高めるため、総合学習・LHR 活動を積極的に活用し生徒の意識改革を行う。 イ 模擬試験等の分析や各種調査をもとにした指導計画の提案を行う。 ウ 「総合的な学習」を利用した3年間を見通した計画案を作成する。	B B B	B	1 「総合的な学習」とホームルーム活動を有機的に結びつけ、3年間を見通した計画を準備する必要がある。そのための進路・教務を中心としたプロジェクトチームを編成し集中的に検討を進めたい。 2 模擬試験等の分析や各種調査をもとに共通認識を高めたい。 3 「夏季進学セミナー」については、生徒・教師とも概ね好評であった。学習目標を設定し、自ら教材を持ち込んだの宿泊研修は、学習意欲の向上と自信を持たせることにつながった。さらに改善を行い継続していきたい。 4 「土曜セミナー」では、1年生の実施を2学期からとしたが、出席率も高く学習意欲も継続した。このように実施時期などの工夫を行いながら充実させていきたい。 5 情報「進路部より」をより一層多く配布できるようにしたい。 6 模試・課外費等の一括徴収は担任負担軽減のため今後も継続したい。	B	○生徒の希望進路実現が最大の目標であることはもちろんのことであるが、将来を十分見据えた上で入学してきた生徒ばかりではない。生徒の進路意識の高揚に向けてさらに継続的に取り組み、将来、地域を支える人材の育成に努めて欲しい。					
	2 課外授業の適正化及び充実化	ア 3学年「夏季進学セミナー」の実施と成果を検証し、検討する。 イ 朝課外・放課後課外・土曜セミナーの実施状況の検証と検討を行う。 ウ 進路希望を実現するため、生徒にとって充実した内容にする。	A B B									
	3 進路情報の発信 各種進路行事の充実 事務処理の効率化	ア 「進路通信」などを通じて生徒・保護者に情報を発信する。 イ 進路行事の適正と充実を図る。 ウ 担任負担の軽減と進路事務の効率化を図る。	B B A									
	人権教育	1 人権感覚に優れた生徒の育成を図る	ア 年3回の人権教育特設授業において、参加体験型授業を工夫し、生徒の人権意識の向上をはかる。 イ 『かがやき』などの人権教育教材を有効に利用する。					A A	B	1 各学年で特設授業における参加体験型授業が実施されるようになった。さらに様々な手法を研究し、生徒にとってより有効な授業を工夫したい。 2 新しい教材である『あおぞら』の活用を工夫したい。 3 研修会への参加の呼びかけとともに、その成果を生徒に還元できるような仕組みを工夫する必要がある。	B	○ボランティア活動等をおとして、他者を思いやり、具体的な行動を起こすことを目指した教育活動が多く仕組み、大きな成果をあげていると感じられる。そのことは人権教育にも通じていると思われる。
		2 人権尊重を基調とした教育活動の実践を図る	ア 職員研修会を通して、人権教育の指導力向上を図る。 イ 研修会への積極的参加を呼びかける。また、優れた実践例を紹介し、指導力の向上を図る。					B C				
	生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立	ア 担任・副担任と連携し、遅刻・欠席を0.4%以内に減少させる。					B	B	1 特定の少数生徒が遅刻を繰り返している。家庭との連携を図りたい。 2 風紀検査を長期休業後に3学年一斉に実施したい。 3 挨拶が出来ない生徒に対し、職員側からの積極的な挨拶や声かけを行うことにより、挨拶運動のきっかけとなるようにしたい。 4 生徒会組織が自主的に活動と運営が以前より出来るようになってきた、もっと多くの生徒が積極的に参加できる活動を工夫させたい。 5 学校行事が円滑に運営できるように、期間や内容について検討したい。 6 恒例となった高等盲学校とのマラソン大会による交流を成功させ、本校の文化祭に招待し合同による交流行事を行うなど、新たな交流を展開することが出来た。さらに交流を深めたい。 7 生徒会主催により、関係各期間との連携を図り交通安全マナーアップキャンペーンや地域関係者との交流を深めたい。 8 登下校時の交通安全指導をより機能的に展開したい。 9 部活動強化により、全校生徒の意識改革(学校に誇りと自信)を進める。	A	○文化祭について、芸術科及び英語コースの内容は素晴らしい。普通科一般の生徒もそれらに啓発された、より素晴らしい内容を期待する。 ○体育祭は素晴らしい、見事と言うほかない。 ○吹奏楽部、清掃活動など地域ボランティア活動には大変感謝している。 ○部活動参加率が70%に達しているのは素晴らしい。 ○これまで、登下校時の交通マナーについて指摘されることがあったが、通学路が広くなり、これからは、地域も生徒を育てるという観点から積極的に注意・指導し、学校に協力したい。
イ 定期的に風紀検査を行い、全職員で徹底した指導を行う。			B									
ウ 生徒会の生徒を中心に挨拶運動を展開し、気持ちの良い学校にする。			B									
2 生徒会活動の充実		ア 積極的に各種委員会を開催し、活性化を図る。	B									
		イ 生徒会が中心となり、体育祭・飛梅祭などの学校行事を成功させ伝統あるものにしていく。	A									
		ウ ボランティア活動の案内・推進また、地域及び他校との交流を図る。	A									
3 交通安全指導の徹底		ア 交通安全運動を展開することにより自分の安全を守ることや地域住民の方々に迷惑にならぬよう交通マナーを身につけさせる。	B	B								
		イ 全職員による朝課外前及び下校時の交通指導を行う。	B									
		ウ 5月と10月に自転車安全点検を実施する。	B									
4 特別活動の充実		ア 部活動の加入率を70%以上にする。	B	B								

保健指導	1 健康管理に対する意識の向上と処置の徹底	ア 保健室の適正利用については日頃から担任や養護教諭を通じて指導する。	A	A	A	1 保健管理に対する措置については本年度アレルギー健康相談を行った。またAEDの講習会に加え、体育祭での緊急時の対処方法・新型インフルエンザの対応方法については職員会議を行い、周知徹底を図った。さらにスクールカウンセラーによる相談も受け付け、長期欠席者など、心に悩みを抱える生徒の対応に当たるなど充実した取り組みができた。次年度も引き続き実施していきたい。	A	○生徒の挨拶がすばらしく、本校の生徒指導はきめ細かく親身である。しかし、不登校・ひきこもりの問題は本校にもある。1年生で体育祭も経験せずに退学していく生徒達がいるのは残念である。PTAなど地域もその解決に協力できることがあれば是非やらせて欲しい。
		イ 危機管理マニュアルやAEDの講習会を通して職員の意識を高め、緊急事態に適切かつ迅速に対応できる体制を備える。	A					
		ウ 薬物乱用防止教育の指導内容の充実を図ることにより防止に努める。	B					
	2 教育相談活動の充実(カウンセラーの活用)	ア 養護教諭が担任会に参加することにより、不登校や心に問題を持つ生徒に対する状況掌握に努め、早期解決を目指す。	A					
		イ 性と心の健康相談の活用を促すことにより、心の悩みや課題を持つ生徒に対する適切な対応に努める。	A					
	3 清掃活動の充実	ア 掃除監督については全職員で指導に当たり、清掃活動を充実させ日頃から校内美化に努める。	B					
イ 清掃が不十分な箇所や備品の破損箇所がある場合は職員朝礼にて連絡を行い、担任による早急な指導を徹底していく。		B						
職員研修	1 本校教職員の力量形成に資する研修を推進する。	ア 本校教職員の実践を活かした研修を推進する。	B	B	B	1 今年度は、特に生徒理解をテーマに研修を行った。なかでもスクールカウンセラーを囲む教育相談の座談会も新設したが、教職員間に好評だった。次年度も時宜にかなった企画を導入したい。	B	○教員一丸となった教育活動を展開するためにも職員研修の一層の充実を期待する。
		イ 生徒理解及び指導方法に関する研修を実施する。	A					
		ウ すべての教科における授業研究を推進する。	B					
2 新採研並びに10年経過研修等の充実をはかるとともに、研修の成果を共有する。	ア 新採研修、10年経過研修の発表会等を設け工夫・充実を図る。	B						
	イ 学校改善に関わる情報を収集・分析する。	B						
	ウ 本校教職員の研究等の成果を収録した研究紀要を刊行する。	C						
図書	1 図書館利用の促進	ア 学習資料センターとして機能できるよう、資料の収集に努める。	A	A	B	1 各教科との連携を図り、授業と連携した特設コーナーを充実させ、図書館を活用していただく。	B	○読書活動等は生徒の人間形成に重要な役割を果たすものである。さらに継続的な取組を期待する。
		イ 授業やLHRでの図書館利用を促す。	A					
	2 「朝の10分間読書」実施に向けてのサポート体制の確立	ア 図書委員を中心に、広報活動に力を入れ、図書の紹介に努める。	B					
3 校誌の内容を充実させる	イ 「学級文庫」の貸出をする。	B						
	ア 昨年に引き続き、個々の生徒の活動を記録したページを作り、図書委員が編集作業へ参加する体制を整備する。	B						
	イ 図書委員が編集作業へ参加する体制を整備する。	B						
芸術科	1 芸術科教育の充実に努める。	ア 芸術科教育内容を充実させ、本格的指導を定着させる。	B	B	B	1 1年生においては芸術科教育の定着のために徹底した個別指導を行い、放課後の部活動と一体化し、目標に向けてさらなる指導を行った。結果として新聞等に多数掲載され実績を残した。次年度の課題として生徒の質の変化にどのような指導方針を敷くのか芸術科教員全体の論議が必要である。	A	○芸術科の教育内容、諸活動ともに充実し、すばらしい。進路実績も申し分なく、本校教育を牽引する学科であると認識している。今後とも芸術科の教育内容の充実・発展に努めてほしい。
		イ 生徒、保護者、地域が要求する高い進路目標を実現させるため、科独自の指導体制を作り、一致して取り組む。そのために実技指導、公募展出品等、実績を積ませる。芸術科生全員が何らかの展覧会で入選を果たし、95パーセントを上回る入選率を目指す。多様な進路に対応する。進路実現達成率90%を目標とする。	B					
	2 希望に沿った高い目標の進路実現を目指す。	ア 芸術科教育に応える意欲ある生徒募集のため、生徒職員一丸となり本校芸術科(美術・書道)の教育内容の広報に努める。また、各地区中学生進路相談事業へ参加し、本校の芸術教育の周知徹底に努める。	A					
		イ 体験入学のみならず、中学校単位、個人単位の学校見学も積極的に受け入れ教育内容を理解してもらう。	A					
3 広報活動に努め、芸術的な意欲を持った生徒を募集する。	ア 本校芸術科の特色作りと国際性、社会性の涵養のため、国内研修を行う。また、海外研修にも積極的に取り組む。	B						
	イ 国内研修にあたっては情報教育にからめた事前研修を十分に行い、実りあるものとする。	B						
4 国際性の涵養と情報教育を行う。	ア 海外研修・サマーキャンプ・英語劇・総合学習等のコース行事に積極的に取り組ませる。	A						
	イ 3年間の専門科目の内容を精選し、より効果的な教授法を模索する。	B						
英語コース	1 国際理解教育を推進し、国際人としての資質を高める。英語運用能力を高めるため、専門科目の内容を充実させる。	ウ 本校生徒の留学を奨励し、留学生も積極的に受け入れる。	A	A	B	1 今年度の海外研修に関しては、燃油サーチャージの高騰につき生徒への負担が大きかった。海外研修自体をどうするかという話にもなったのだが、この研修こそが英語コースの売りなので来年度以降も続けていきたい。また、留学生は1年生のクラスに入ったが、まだ落ち着いていない中に入れるのは大変なので、来年以降は2年生のクラスに入れて面倒をみていく。	A	○毎年、文化祭での英語劇には深く感動している。生徒の多様な進路希望にもかかわらず一斉指導だけでなく個別指導も充実し、全員の進路が決定したことはすばらしい。今後は、本校英語コースの成果をさらに地域に発信してほしい。
		ア 大学進学・海外留学・専門学校・公務員・就職と多様な希望進路を実現するため、きめ細かな進路指導を行う。	A					
		イ 本校在学中に留学した生徒のため、適切な進路指導を行う。	B					
	2 希望進路実現に努める。	ア 英語コースの生徒は英検の毎回全員受験を勧める。コース全体で2級取得30名以上を目指す。	B					
		イ TOEICの学校受験を実施し、得点伸張を図る。	B					
	3 英検やTOEIC等の資格試験受験を奨励する。	ア 中学生暗唱大会・体験入学・APU ツアー・英語コース授業体験の充実を図り、英語コースをより理解してもらう。	A					
		イ ホームページ上の英語コース通信をこまめに発行し、リアルタイムな情報を提供する。	B					
		ウ 中学校訪問の回数を増やす。またFAX等を使って中学校に英語コースの情報を流す。	B					
	4 広報活動を活性化し、優秀な意欲ある生徒の確保に努める。	ア 中学生暗唱大会・体験入学・APU ツアー・英語コース授業体験の充実を図り、英語コースをより理解してもらう。	A					
		イ ホームページ上の英語コース通信をこまめに発行し、リアルタイムな情報を提供する。	B					
		ウ 中学校訪問の回数を増やす。またFAX等を使って中学校に英語コースの情報を流す。	B					

自己評価及び学校関係者評価委員会の評価をもとにまとめた改善策(項目を設定して、簡条書きで記入すること。)

- ※ 生徒の学力向上に向け、授業内容の精選や授業方法の工夫・改善になお一層取り組み、生徒一人一人の進路希望が達成されるよう継続的・計画的な学習指導を具体的に進めていく。
- ※ 芸術科・英語コース・普通科医療系進学コース等の特色ある教育活動の充実発展に向け、更なる努力を続けていく。また70%を超える部活動への入部率を目指し、活力ある教育活動を展開する。
- ※ 父母教師会、教育振興会並びに同窓会との連携を強め、学校評議員・学校関係者評価委員をはじめ地域の皆様に期待され愛される創設24年目の学校作りに邁進していく。

※ この欄は学校関係者委員会では記入しないこと。

評価項目以外のものに関する意見

○今後とも、人格形成の場としてしっかりと教育を展開して欲しい。